

長畝ふるさと通信

【2014年10月号】

■ 26年産米 稲作ダイジェスト

● 4月「種まき」…恐るべし芽の集団力

4月8日、早朝の地震で種まきをして催芽庫に積んであった苗箱が大きく傾いていました。何箱かは床に落ちて使い物にならなくなりましたが、大半は5ミリ程度伸びた白い芽が上の苗箱に突き刺さっていたため、落下を寸前のところで食い止めていました。もしも地震がもう1日早く起きていたら、おそらく芽が伸びていないのでたくさんの苗箱が床に落下して散乱していたでしょう。



● 5月「田植え」…8条田植機デビュー

念願の8条田植機を買いました。馬力もあって作業効率がぐーんとアップする…はずでしたが…冬の少雪の影響でダムの貯水量が少なく、この時期にまさかの節水制限となりました。例年なら片っ端から田んぼに水を入れ、田植えをこなしていくのですが、おかげで水の出るエリアが日替わりとなってしまい、集中した田植えが出来ない始末。自然には勝てません。

● 6月「中干し・溝切り」…梅雨入りはしたものの…

田植えも無事終了し、しばらくは田んぼの水管理に神経をとがらせていました。しかし、6月中旬に梅雨入りはしたものの、一向に雨が降りません。不自由な給水にイライラしながら、太陽がサンサンと照りつける中、ひたすら田んぼの溝切りと畦草刈りの毎日です。

育苗あとのハウスではトマトの栽培も始まり、さらに暑さがこたえます。



● 7月「酒米出穂」・・・いよいよだ！

今年始めて取り組んだ酒米「五百万石」が7月末に出穂しました。「この調子なら8月下旬には収穫出来そうだ」と思いきや、8月の日照不足の影響で実際の収穫は9月4日まで伸びて出鼻をくじかれた思いです。近年の異常気象は確実に農作物に影響しています。



● 8月「航空防除」・・・トキがびっくり

8月の防除はラジコンヘリで行います。早朝5時、エンジンの音が田んぼにけたたましく鳴り響くと、近くで餌をついばんでいたトキ3羽が慌てて飛び立っていきました。人間とトキとの共生は色々な場面で考えさせられます。



● 9月「稲刈り」・・・ゲリラ豪雨で右往左往

快晴だった空に突如として真っ黒い雨雲が出現、と思った瞬間「ザー」と激しい雷雨が・・・今年の稲刈りはこんな場面が幾度とありました。その度に作業は中断もしくは中止となり、慌てて右往左往することも・・・自然相手の商売ではありますが、お天道様を恨むこともござんす。



● 収穫を終えて・・・

今年の総収穫量は約7000俵。しかも、こがねもちを除けばオール1等米でした。1等米と2等米ではコシヒカリで1俵当たり1,200円も価格差が付くので有り難いことです。

左の写真はある山奥の棚田の収穫作業の様子です。平野部の田んぼと比べれば遙かに非効率ですが、生産者の努力と情熱はそれ以上に注がれています。しかし現実はそので取れた

お米も価格は同じ。かかった手間を差し引けばむしろ安いお米になっています。価格では表すことの出来ない田んぼの価値がそこにはあるのです。

■ 収穫から出荷までダイジェスト



① コンバインで収穫された「モミ」はダンプでライスセンターへ運ばれ、乾燥機で水分15%にまで乾燥します。



② 乾燥したモミは粳すり機でモミガラが外され「玄米」となります。このとき、玄米色選機を通すことによって未熟粒や斑点米、異物などが取り除かれます。



③ 袋詰めされた玄米はJA倉庫で穀物検査員の検査を受け格付けされます。検査方法は42袋のお米に対し15検体をサンプリングし、検査員の目視で整粒歩合が70%以上のものが「1等米」となります。サンプルのうち1袋でも違等級のものが有れば42袋全てを検査し、等級を判別します。1等米と2等米の価格差は1俵当たり1,200円もしますから運命の分かれ道で

もあるわけです。最近では「食味計」なるもので食味値やタンパク含有量なども計測し、さらに差別化販売を模索しています。

④ 格付けされたお米はその後、JAの低温倉庫に品種別・等級別に保管され出荷されていくので



す。ちなみに皆さんにお届けしているコシヒカリもJA倉庫で保管し、毎月お届けしています。

現在JA倉庫に山積みされているお米は僕らにとって正に「メシの種」となります。遠慮無くお召し上がり下さい。

おかわりは自由です